

研究機関：広島大学

研究課題名	当院における EGFR 遺伝子変異陽性の既治療非小細胞肺癌に対する再生検の現状
研究責任者名	広島大学医歯薬保健学研究科分子内科学 教授 服部 登
研究期間	2018年1月23日(倫理委員会承認後)～2018年3月
対象者	当院で EGFR チロシンキナーゼ阻害薬による治療後に、2015年1月から2017年7月の期間中に再生検を施行した既治療進行非小細胞肺癌患者さんを対象とします。
意義・目的	肺腺癌は癌細胞の増殖や進展を促進する上皮成長因子受容体 Epidermal growth factor receptor (EGFR) 遺伝子変異が約50%の症例に認められることが報告されており、EGFR 遺伝子変異を有する症例に対しては分子標的薬である EGFR チロシンキナーゼ阻害剤 (EGFR -tyrosine kinase inhibitor : EGFR-TKI) が従来の抗癌剤と比較して良好な抗腫瘍効果を認められており、本邦のガイドラインでは初回治療薬として推奨されています。ただ一方で、EGFR-TKI は平均1年後にほぼ全例で耐性が獲得されます。この耐性化した症例の約50%では癌細胞に T790M という EGFR 遺伝子変異が新規に認められ、T790M 変異が検出された症例においては、オシメルチニブが奏功することが報告されています。よって、EGFR-TKI 治療に耐性を獲得した症例に対して T790M の検索を目的とした腫瘍組織の再生検が、様々な施設で盛んに行われるようになってきています。当院でも積極的に再生検を行っており、EGFR-TKI 治療に耐性を獲得した症例に対する T790M 検索を目的とした当院の再生検の現状を明らかにするため、本研究を行います。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は年齢、性別、治療歴、血液検査、病理結果、再生検方法などです。 (個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	特にありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学医歯薬保健学研究科分子内科学 教授 服部 登
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合は2018年3月末日までにお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 T e l : 082-257-5196 広島大学病院 呼吸器内科 医科診療医 三浦 慎一郎